

横浜市教育委員会  
定例会会議録

- 1 日 時 令和5年4月7日（金）午前10時00分
- 2 場 所 市庁舎 18階共用会議室（みなと6・7）
- 3 出席者 鯉渕教育長 中上委員 森委員 四王天委員 大塚委員 木村委員
- 4 欠席者 なし
- 5 議事日程 別紙のとおり
- 6 議事次第 別紙のとおり

# 教 育 委 員 会 定 例 会 議 事 日 程

令和5年4月7日（金）午前10時00分

- 1 会議録の承認
- 2 一般報告・その他報告事項  
市立図書館赤ちゃんから小学校低学年のお子さま向け春のイベント  
「新しいこと、本といっしょに」について
- 3 審議案件  
教委第1号議案 横浜市学校規模適正化等検討委員会臨時委員の任命について  
教委第2号議案 損害賠償請求事件の控訴に関する意見の申出について
- 4 報告案件  
教委報第1号 教職員の人事に関する臨時代理報告について
- 5 その他

[開会時刻：午前10時00分]

- 鯉渕教育長                      それでは、ただいまから、教育委員会定例会を開会いたします。  
初めに、2月1日及び4月1日付で教育委員会事務局の経営責任職の異動がありましたので、事務局から紹介いたします。
- 原田職員課長                      職員課長の原田です。よろしくお願いいたします。それでは、異動のあった職員を紹介いたします。  
総務部図書館ビジョン等担当部長の福島雅樹でございます。
- 福島図書館ビジョン等担当部長                      <一 礼>
- 原田職員課長                      教職員人事部長の村上謙介でございます。
- 村上教職員人事部長                      <一 礼>
- 原田職員課長                      施設部長の岡靖之でございます。
- 岡施設部長                      <一 礼>
- 原田職員課長                      学校教育企画部医務担当部長の岩田真美でございます。
- 岩田医務担当部長                      <一 礼>
- 原田職員課長                      人権健康教育部中学校給食プロモーション担当部長の林豪でございます。
- 林中学校給食プロモーション担当部長                      <一 礼>
- 原田職員課長                      以上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。
- 鯉渕教育長                      それでは次に、会議録の承認を行います。3月6日の会議録の署名者は森委員と四王天委員です。会議録につきましては、既にお手元に送付してございますが、字句の訂正を除き、承認してよろしいでしょうか。
- 各委員                      <了 承>
- 鯉渕教育長                      それでは、承認いたします。字句の訂正がございましたら、後ほど事務局までお伝えください。  
なお、3月17日及び3月24日の教育委員会臨時会の会議録につきましては、準

備中のため、次回以降に承認することといたします。

次に、議事日程に従い、教育次長から一般報告を行います。

木村教育次長

【一般報告】

1 市会関係

教育次長の木村です。それでは、報告いたします。

まず、市会関係ですが、前回の教育委員会臨時会から本日までの間についての報告はございません。

2 市教委関係

(1) 主な会議等

- 3/24 令和4年度 横浜市立高等学校課題探究発表会
- 3/31 学校管理職等辞令交付式ほか
- 4/3 新規採用教職員辞令交付式
- 4/3 教育委員会事務局職員辞令交付式
- 4/6 上白根北中学校 開校式

(2) 報告事項

- 市立図書館赤ちゃんから小学校低学年のお子さま向け春のイベント「新しいこと、本といっしょに」について

次に、教育委員会関係の主な会議等ですが、3月24日に「令和4年度 横浜市立高等学校課題探究発表会」が市庁舎1階アトリウムで開催され、鯉渕教育長、中上委員、森委員、四王天委員、大塚委員が視察されました。

3月31日には、学校管理職等辞令交付式を保土ヶ谷公会堂で行いました。当日は、退職及び校長等に採用された教職員を対象とした辞令交付式と、再任用管理職任期終了者への感謝状贈呈が行われました。

4月3日には、新規採用教職員辞令交付式を横浜武道館で行いました。今年度は教職員827名が採用となり、鯉渕教育長より辞令の交付と訓示を行いました。

また、同4月3日に教育委員会事務局職員の辞令交付式を行っています。

さらに、4月6日に上白根北中学校の開校式が行われ、鯉渕教育長、大塚委員が出席し、鯉渕教育長が挨拶いたしました。

次に、報告事項として、この後、所管課から「市立図書館赤ちゃんから小学校低学年のお子さま向け春のイベント『新しいこと、本といっしょに』について」報告いたします。

私からの報告は以上です。

鯉渕教育長

報告が終了しましたが、何か御意見・御質問等ございますか。

森委員

今、御報告にもありましたが、3月24日の「横浜市立高等学校課題探究発表会」に参加いたしましたので、その点についてコメントしたいと思います。今回の発表を聞きまして、子供たちの伝える力や会場を巻き込みながら発表している様子、熱意など、各学校の先生方の意欲を非常に感じました。更に場が良くなるかなと思う点が3つほどありましたので、それを述べさせていただきたいと思います。

1点目は探究するテーマについてです。なぜ自分たち若しくは自分がそのテーマを探究したいのか、そのテーマ設定が非常に大事だと思います。探究というのは、知識と自分をつなぐものだと思います。それが深くつながっているとなかなか忘れないですし、更に知りたくなっていくものだと思いますが、知識を増やしていった先に、自分自身は何に関心があるのかですとか、自分自身を十分に深めきれていないと、なかなかその接点は生み出しにくいと思います。そのため、探究するテーマを設定する前に、ホームルームやいろいろな教科との掛け合わせも含め、自己対話ですとか、フィールドに出て自分の関心を広げることがより重要ではないかと感じました。実際、発表の中でのテーマ選定は、自分につなげて取り組んでいる事例もあり非常に良いと思いましたので、どうやってそのテーマに行き着いたのかという知見の共有が必要だと思います。

2点目は今の点とも関連しますが、探究における教員の伴走についてです。理数系の検証や仮説を立てて検証することについては、大分知見もたまってきている様子が見受けられました。ただし、社会的な問題に対しての検証については、大きなジャンプがあり過ぎないように、条件の設定が非常に大事だと思います。あとは、影響を及ぼす変数が非常に多くありますので、気をつけなければいけない点はいくつかあるかと思います。例えば、サンプル数が少ない中で調査をして結論づけることは危ういと思いますので、そのようなことも気をつけながら、どのような点を教員が伴走するのか、小・中学校でも取り組んできた「はまっ子未来カンパニープロジェクト」ですとか、高等学校の中でも知見があると思いますので、その蓄積・共有が大事だと思います。

最後の点は、探究するための時間の確保です。非常に大きなテーマですと、プロジェクトを実施している事例もありました。その壮大なテーマに対してかけられる時間のバランスが適しているかどうかの確認が必要だと思います。高等学校における探究が更に必要になってくると思いますので、学校に大きなばらつきがあるのではなく、どの学校においてもしっかりとその時間を確保していくことが重要になってくるのではないかと思います。以上です。

鯉淵教育長

ほかにいかがでしょうか。

中上委員

一つの感想と一つの意見を申します。昨年もオンラインで拝見し非常に楽しかったです。昨年は、横浜サイエンスフロンティア高等学校や桜丘高等学校のならば歩行などが特に印象に残り、非常に専門的で課題探究発表にふさわしい内容でした。今年は、最初の発表は時間の関係で拝見できなかったのですが、どれもなかなか個性があって優劣つけがたいのですが、あえて三つ言いますと、一つ目は、先ほど言いました横浜サイエンスフロンティア高等学校の文部科学省の表彰を受けた内容で、非常に科学的な検証をされています。より専門的な課題についての探究で、これも昨年に続いて良かったなと思いました。二つ目は、桜丘高等学校の有孔虫の探究についてです。これの何が良かったかと言うと、仮説を立てて、それを検証というか探究していくわけですね。そのやり方は、仮説を立てて実際に自ら現場に出向いて検証したり、図書館に行ったりして調べて、それを発表すると。そこにはまだ課題もいくつか見えましたが、そのプロセスが非常にこの発表会にふさわしい内容だったと思いました。三つ目は、横浜総合高等学校の消防団を増やすためのPR方法です。何に感心したかと言うと、地域の課題で、今は消防団員が非常に少ない中で、いかにそれをアピールするかということです。まず地域貢献で、課題解決のための課題を一つ提案していることがすごいなと思いました。いずれも横浜教育ビジョンにあります「自ら学び 社会とつなが

り ともに未来を創る人」という、横浜の教育が目指す中での探究発表だったと思います。

一つの意見としては、この前小学校の発表会も拝見し、論理的に、内容が稚拙な部分はあるのですが、違ったエネルギーというかパワーがあって感心しました。今回感じたのは、高等学校の専門性の高いこの内容を、ぜひ中学生にも見てもらいたいなと思いました。入試の時間とのタイミングがあり、なかなか時期的には難しいでしょうが、そこについて何か御意見があったらお願いします。

石川学校教育  
企画部長

学校教育企画部長の石川でございます。まずはありがとうございます。御覧いただければ生徒たちの励みになると思います。今のお話ですが、私どもも、高等学校の探究の活動の様子を中学生や小学生にもぜひ見せたいと考えております。ただ、委員がおっしゃるように、時期的に難しいこともございますので、今回も動画を撮影して、それを何とか中学校や小学校の授業で活用できないかということは今考えているところで、また工夫していきたいと思っております。

中上委員

ありがとうございます。さすがにそこまで目配りされている。特に子供たちには直接見てもらうのが一番良いのですが、課題探究を指導される先生方にもぜひ見ていただくと良いかなと思いました。以上です。

鯉渕教育長

ほかにございますか。

大塚委員

私も当日、高校生の発表を拝見しました。本当にエネルギーで、自分たちが興味を持ったもの、関心を持ったものに対して探究していく姿は素晴らしいなと思いました。それに併せて、発表している生徒たちを応援する教員の姿も一緒に見させていただきました。子供たち自身が答えのないものを自ら探していく、そこに教員がどういう立ち位置でいらっしゃるかということが非常に重要だと思います。決して答えを持って立っていらっしゃるわけではないと思います。その教員の思いというものが伝わってきたと思っております。

一つ、私はずっと小学校に携わってきましたが、小学校は1・2年生が生活科、3年生から中学校3年生までが総合的な学習の時間ということで、高校生の総合的な探究の時間の土台という言い方がどうか分かりませんが、蓄積が非常に物を言うと思います。すごく大事だと思ったのは、小・中学校で取り組んできた課題設定が、高等学校でまた内容的に、課題という表に見える部分で似たようなものがたくさん出てくると思います。そこにおいて、テーマ的には重複していても、そこでどういう児童生徒の成長の姿を求めるか、発達段階に応じた求める姿をより明確にしていくことが、これから非常に大事になってくると思います。そういった意味で、今、中上委員からもございましたが、あのような発表の場で、生徒たち児童たち自身が様々な校種の発表を目にするとともに、教職員もそこから学ばせていただくことで、ぜひ教職員自身の研修をより質の高いものにして、毎年この発表が更に質の良いものになっていってほしいなどの思いでおります。よろしく願いいたします。

鯉渕教育長

ほかにございますか。

四王天委員

課題探究学習というのは、グループで決めたテーマに沿って、完全な正解でなくても、最善解を求めてみんなで追究していく、そして、非認知能力を育むのにすごく最適なカリキュラムの一つだと思っております。みんなで協力し合って、

試行錯誤を重ね、時には行き詰まって失敗もすることでしょう。教育現場は往々にして失敗回避の指導がなされてしまう場合が多い中で、失敗を体験できるという、貴重な体験ができる場であると思います。先生方はフォローという役でしたけれども、生徒が失敗する場を忍耐強く見守っていただけたらなと思いました。

先ほど森委員も触れていらっしゃいましたが、人前でプレゼンすることは非常に難易度が高いものですよね。すばらしい研究発表でも、相手に伝わらなければ成果となり得ません。とてももったいないです。私も最近、10分以内でスピーチをする場面を与えられたのですが、あれもこれも伝えたいという思いや、その構成を考えたときに非常に難しく、かえって1時間ぐらい話したほうが話しやすいかなと思ったくらいです。今回、生徒に与えられたプレゼンの時間は7分から10分ぐらいということでしたが、準備にかけた時間から考えると、もう少し長い時間、いろいろな学校が発表するのでトータルで時間が長くなってしまいう懸念はあるかもしれませんが、せめて20分ぐらいはじっくりとプレゼンさせてあげたいなと思いましたので、その時間を取っていただきたいと思います。

最後にもう一つだけ、今回は特別支援学校の生徒のチャレンジもぜひ入れていただきたいなど。彼らも十分できますし、非認知能力を育てるというカリキュラムではとても最適だと思いますので、ぜひ特別支援学校の生徒にも発表させるというチャレンジの場を与えていただきたいと思います。以上です。

鯉淵教育長

御意見ということで。

木村委員

お疲れさまでした。大変申し訳ありません。私は発表を拝見していないのですが、探究学習はこれからの学校教育の中ではものすごく重要で、今、文部科学省では「令和の日本型学校教育」と言われていますけれども、その中で重要なポイントはここだと思っています。ですから、高校教育課、各委員の感想等を聞いたときには、本当にしっかり取り組まれているなと思いました。これをまたどうやって進めるのかが今後の課題になってくると思います。先ほど大塚委員もおっしゃっていましたが、総合的な学習は、自分らしさというよりも、自分としての生き方とか、そのために課題設定して、それを解決していく。これが総合的な探究では、生き方プラス、自分として、人として、社会としての在り方を考えて課題発見し、今度は課題解決能力を更に養っていく、こういったところにあると思います。つまり、その中で様々、研究のやり方、あるいはプレゼンテーションも含めトータル的な学びが、まさしく今の学校現場は習うより学ぶですから、学ぶということは、自主的ではなく主体的に自分で課題設定してどうするか。ここに本当に大きな力が出るのではないかと思います。

もう一つは、様々な課題の中で、当然、教科横断ですね。大学でも今言われているのは、文理融合。文系、理系だけでなく、どう融合することが大事なのか。さらに、知識と実践の往還。そうすることで、様々学んでいるものが、主体的な課題発見で更に広がってくるのではないかと思います。まさしく様々なところに教科書や教材がありますけれども、かつての学習観は、それを覚える、いわゆるコンテンツの獲得だったのですが、今は違いますよね。そこに飛びついて主体的に課題設定していく、いわゆるコンピテンシーの育成。そのためにも、この中核となるのはやはり探究学習ではないかと思います。

あと、大学でも社会でも求められているのは、今、入試も半分ぐらい推薦あるいは総合型になっていますが、どういった人たちを求めているのか。つまり、地頭の良い人。地頭というのは、生まれ持って偏差値が高いのではなく、自分が主

体的に課題設定して、それに取り組んでいくような能力を持っていることです。まさしく地頭を鍛えるには、こういったことが必要になっていくのではないかと考えています。本当に今、教育現場はいろいろと言われることが多いですが、防御一辺倒ではなく、攻めの防御。攻めに行くためには、ここの探究学習が大きな一つの切り口になってくると思いますし、今後の在り方が大変期待できると思っています。

あと、研究活動は、理工系云々で即結果が出るものや、短期的経済効果が見込まれるものと、そうではなくて、じわじわと最終的に学校を、自分を、国をプラスにしていく長期的経済効果的なものがあると思います。ですから、子供たちが見つけるいろいろな設定、その取組も即出るものではなくて、長期的に出るものなどいろいろありますので、本当に興味深いと思っています。発表を見てもないのに偉そうに言うのはちょっと恥ずかしいのですが、高校教育課の今後の取組に期待、というよりも信じていますので、ぜひ進めていただければと思います。以上です。

鯉淵教育長

ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは次に、「市立図書館赤ちゃんから小学校低学年のお子さま向け春のイベント『新しいこと、本といっしょに』について」所管課から報告いたします。

下澤中央図書館長

おはようございます。中央図書館長の下澤でございます。いつも御指導いただきありがとうございます。本日の報告は、「こどもの読書週間」に合わせました春の読書キャンペーンについてでございます。資料は企画運営課長から説明いたします。

小田川中央図書館企画運営課長

企画運営課長の小田川でございます。お手元の資料の1枚目から御説明させていただきます。こちらは、市内の全小学1年生に向けて配付するものでございまして、「ほんが いっぱい！ としょかんに いってみよう！」と題しているものでございます。春の特別イベントにつきましては、お話し会ですとか、お勧め本の紹介など、各図書館で行っているものでございますが、小学校1年生が、学校に上がるタイミングで、ぜひ図書館に親しんでいただきたいということで実施するものでございます。「せんちゃく 100にんに すてきな プレゼント！」と記載されておりますが、移動図書館のペーパークラフト等をお配りする予定になっております。

こちらのチラシの表面はお子様を中心に御覧いただく面でございます。裏面を御覧いただけますでしょうか。裏面は主に保護者の皆様方に御覧いただくもので、イベントの紹介のほかに図書館の御案内を掲載しているものでございます。

その次のページは春のイベントのポスターということで、1枚目のチラシは小学校1年生を対象にお配りするものですが、こちらのポスターにつきましては各所に掲出していただくものでございます。今年度につきましては、新たな広報先といたしまして、地域子育て支援拠点、親と子のつどいの広場等にも御協力いただくということ、また、こちらのイベントの内容につきましては、本市のLINE公式アカウントでも発信したいということで、今年度は更に広報に力を入れてまいりたいと思っております。御説明については以上です。

鯉淵教育長

説明が終了しましたが、何か御意見・御質問等ございますか。

森委員

御報告ありがとうございます。私も一度、過去に開催されていたこういったイ



ベントを見たことがあるのですが、非常に興味したというか学びが多かったのは、司書の方が本1冊を赤ちゃんや子供向けに読みながら、そこからすごく世界を広げてくれる、広がりをつくってくれることでした。多くの保護者の方は、子供や赤ちゃんに絵本を読むのが大事と言われても、ただなめるだけとか、めくるだけとかで、それで本を読んでいるのかなと疑問に思いながら、開いたり読んだりしています。でも、実は発達段階においてそれがどのように大事であるかを説明してもらう機会を得たり、保護者の楽しみ方、表紙を全部開いて全体の楽しみ方ですとか、メッセージの読み取り方を教えてもらったり、本1冊から、公園や町中を歩いたときのつなげ方みたいなことなど、いろいろな形で質問に答えてもらったり、世界を広げてもらうようなことを、大変短い時間でしたがたくさん聞くことができました。そのため、まさにこういったポスターやイベント、スタンプラリー的なものなどはすごく大事な取組だと思いますし、それに加えて、そういった本の楽しみ方を知るような機会も併せて更に充実していただけると良いなと思いました。

鯉淵教育長

ほかにかがでしょうか。

中上委員

先日、中央図書館と港北図書館、日吉図書取次所などを訪問させていただいて、最近の図書館は様々な取組で非常に頑張っておられるなど感じました。これはずっと前から実施している春のイベントですよ。秋のイベントは何でしたか忘れしてしまったのですが、読書の秋ということで、秋のイベントも実施していますよね。

小田川中央図書館企画運営課長

秋につきましては、一般の方を対象に、読書の秋に合わせてイベントを実施しております。

中上委員

今、図書館に対するいろいろな期待やニーズがある中で、限られた予算でハード的にもなかなか厳しい制約の中で、いろいろな工夫をされているなど感じました。今の定例的なイベント以外にも日常的に、今、非常に話題になっている健康や感染症のコーナーだったり、港北図書館ですと地域の歴史・文化を紹介しています。地域の方からも支えてもらうための役割だとか、単に図書館に行って生涯学習を行うだけではなく、なるべく人を呼び込んで次のアクションにつなげるようないろいろな取組をされていることについて、私も非常に勉強になりました。今後いろいろなビジョンもありますけれども、さらに今、現実のいろいろな課題がソフト・ハードありますけれども、その点を踏まえた上での議論をお願いしたいと思います。以上です。

鯉淵教育長

ほかにかがでしょうか。

大塚委員

この取組もとても期待しております。赤ちゃんから低学年までということですが、やはり今年小学校1年生になる子供たちは、学校というところにもものすごく大きな期待を持って入学してくると思います。また、そこで出会う図書館も、幼稚園や保育園時代とは違った意味での新たな出会いの場ではないかと思います。

この情報の発信方法で、チラシ等はもちろん学校等を通しての配付になると思いますが、例えば1年生が自らキッズページにアクセスしたりとか、そういった部分での1年生用のホームページはどんな感じになるのでしょうか。発出日は本日

かと思うのですが、どんな感じになるのかなと。そこをちょっと聞かせていただければと思います。

小田川中央図書館企画運営課長

図書館でお子様向けのキッズページを御用意しております、そちらでも周知させていただきます。

大塚委員

ありがとうございました。この2枚のチラシは、とても温かくてワクワクするようなチラシになっています。キッズページも、ティーンズページもあったと思うのですが、ぜひこの温かい雰囲気はぱっと飛び込んでくるような、そういった部分で子供たちの期待に応えてほしいと思います。よろしく願いいたします。

木村委員

ほかの委員もおっしゃったのですが、本というのは、AI的にぽんと答えが出てくるものではなくて、開くことでどうつながっていくか。それで自分が得た情報をしっかりインフォメーションなのか、インテリジェンスにするのか、様々な効果があると思います。小さいときから本を開く。開いて、そこだけではなくて全体をどう見渡せるかというのが大事ですので、今言ったように、小さいときから本を開くときのワクワク、ウキウキ、ドキドキ感とか、これが来ると思います。私も忙しいとぱっと電子辞書を引きますけれども、辞典を開くと違いますよね。ですから、こういった本から得る単純知識ではなくて、それが習慣になると多分、自分の行動にもつながってきますから、ぜひ更にワクワク、ウキウキ、ドキドキできるような形に持って行っていただければと思います。意見です。

鯉渕教育長

ほかにございますか。よろしいでしょうか。

特になければ、次に、議事日程に従い審議案件に移ります。まず、会議の非公開についてお諮りします。教委第1号議案「横浜市学校規模適正化等検討委員会臨時委員の任命について」、教委報第1号「教職員の人事に関する臨時代理報告について」は人事案件のため、教委第2号議案「損害賠償請求事件の控訴に関する意見の申出について」は訴訟等に関する案件のため、非公開としてよろしいでしょうか。

各委員

<了 承>

鯉渕教育長

それでは、教委第1号議案及び教委第2号議案並びに教委報第1号は非公開といたします。審議に入る前に事務局から報告をお願いします。

山岸総務部長

4月5日に1団体から「教科書採択に関する要望書」が提出されました。この要望書につきましては、事務局で対応調整の上、教育委員会で審議が必要な場合は次回以降にお諮りしたいと思います。委員の皆様におかれましては、内容の御確認をよろしくお願いいたします。

次回の教育委員会臨時会でございますが、4月21日金曜日の午前10時から開催する予定です。また、次回の教育委員会定例会でございますが、5月11日木曜日の午前10時から開催する予定です。以上です。

鯉渕教育長

皆様、よろしいでしょうか。次回の教育委員会臨時会は、4月21日金曜日の午前10時から開催する予定です。また、次回の教育委員会定例会は、5月11日木曜

日の午前10時から開催する予定です。別途通知いたしますので御確認ください。

次に、非公開案件の審議に移ります。傍聴・報道機関の方は御退席願います。また、関係部長以外の方も退席してください。

<傍聴人及び関係者以外退出>

教委第1号議案「横浜市学校規模適正化等検討委員会臨時委員の任命について」

(原案のとおり承認)

教委第2号議案「損害賠償請求事件の控訴に関する意見の申出について」

(原案のとおり承認)

教委報第1号「教育委員会事務局職員の人事に関する臨時代理報告について」

(報告のとおり承認)

鯉渕教育長

本日の案件は以上です。これで、本日の教育委員会定例会を閉会といたします。

[閉会時刻：午前11時57分]